

文 献

I. 引用文献

Aiken, L. H. , Clarke, S. P. , et al(2002). Hospital nurse staffing and patient mortality, nurse burnout, and job dissatisfaction, JAMA, 288(16), 1987-1993.

Completed through the work of the APRN Consensus Work Group & the National Council of State Boards of Nursing APRN Advisory Committee. Consensus Model for APRN Regulation : Licensure, Accreditation, Certification & Education July 7, 2008. <http://www.nursingworld.org/ConsensusModelforAPRN> [2015-01-13]

古屋肇子, 谷冬彦(2008). 看護師のバーンアウトの生起から離職願望に至るプロセスモデルの検討. 日本看護科学会誌, 28(2), 55-61.

長谷川 隆一, 小野 薫, 奥村 明久, 酒井 龍之, 有菌 信一, 毛利 公哉(2008). 【呼吸管理・呼吸ケア 最近のトピックス総まとめ】 呼吸ケアチームの現状と今後(解説). 呼吸器ケア, 6(11), 1091-1097.

堀内真知子, 小林絢(2008). 終末期に携わる看護師の発達段階におけるコーピングの変化ー Benner の「ドレイファスモデルの看護への適応」を用いてー(原著). 葦((編集)奈良県立医科大学附属病院看護部教育委員会), 163-166.

今井 多樹子, 池田 敏子(2013). ICU、CCU、および救命救急センターに配属された新人看護師における就業時の看護実践上の困難 テキストマイニングによる臨床看護師と新人看護師の自由回答文の解析から. 日本看護学教育学会誌, 23(2), 13-20.

小迫 富美恵(2006). CNS 役割の中心的な位置づけにある。【ケアの根拠 100】 その他 「コンサルテーション」は正しく理解されているか?. ナーシング・トゥデイ, 21(12), 115.

公益社団法人 日本看護協会. 継続教育の基準 ver.2 (2012 年 4 月).

<https://www.nurse.or.jp/nursing/education/keizoku/pdf/keizoku-ver2.pdf>

[2015-01-22]

公益社団法人 日本看護協会. 公益社団法人日本看護協会 日本看護協会が取り組む看護の

質データベース事業(DiNQL) 横浜市立病院等安全管理者会議 2014年3月7日
資料. <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/soudan-madoguchi/h25-3shiryoushiyou2.pdf>
[2015-01-01]

公益社団法人日本看護協会. 生涯学習支援.

<http://www.nurse.or.jp/nursing/education/training/plan.html> [2015-01-22]

久保真人(2004). バーンアウトの心理学ー燃え尽き症候群とはー. サイエンス社. P.120.

松尾睦(2011). 経験から学ぶための三つの力 挑戦し、振り返り、楽しむための方略. 職場
が生きる人が育つ「経験学習」入門. ダイヤモンド社. 68-119.

松尾睦(2011). 「思い」と「つながり」. 職場が生きる人が育つ「経験学習」入門. ダイヤ
モンド社. 121-160.

三石 佐織, 藤堂 美和, 有吉 節代, 藤川 早苗(2010). ICU・CCUにおける看護必要度 に
つながる妥当性のある記録の一考察(原著論文). 日本看護学会論文集 看護総合, 40,
324-326.

宮地哲也, 謝宗安, 廣瀬稔(2006). 人工呼吸器と付属機器の使用実態調査(原著論文). 人工
呼吸, 23(1), 92-97.

水本 麻美, 相楽 章江, 高橋 従子, 山中 聖美, 向江 剛, 藤本 暢子, 小西 由記子, 宇都
宮 淑子(2013). 一般病棟における人工呼吸器管理に対する看護師の意識とその実状(原
著論文). 山口大学医学部附属病院看護部看護研究集録 平成 24 年度, 12-17.

中西美貴(2012). RSTは呼吸療法の安全に寄与するか 呼吸療法の安全における現状と課
題ー看護師の立場からー. 人工呼吸, 29(1), 26-30.

南條裕子, 荒木知美, 井上文(2006). クリティカルパスにおける記録の不備と関連因子の検
討. ICUとCCU, 30(10), 828-833.

日本看護協会. 専門看護師. <http://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cns>
[2015-01-13]

日本呼吸療法医学会 (2011). 人工呼吸器安全使用のための指針 第2版. 人工呼吸, 28(2),
210-225.

日本集中治療医学会看護部会. 集中治療に携わる看護師のクリニカル・ラダー.

http://square.umin.ac.jp/jsicmnd/jsicmnd_ladder.pdf [2015-01-22]

日本集中治療医学会. 日本 ICU 患者データベース (Japan Intensive care Patient
Database ; JIPAD). <http://www.jsicm.org/jipad/index.html> [2015-01-13]

- 日本集中治療医学会集中治療の労働力調査プロジェクトワーキンググループ，日本集中治療医学会専門医制度委員会(2014)．集中治療専門医認定試験の合格に関連する要因(2008～2012 年)．日本集中治療医学会誌，21，205-212.
- 西脇 可織，小松 万喜子，竹内 久子(2011)．終末期がん患者の看護に携わる看護師の学習ニーズと経験年数およびケアの困難感の関連(原著論文)．死の臨床，34(1)，121-127.
- Nitin Noria, Boris Groysberg, Linda-Eling Lee(2008)．新しい動機づけ理論．新版 動機づける力 モチベーションの理論と実践．DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 編・訳(2009)．ダイヤモンド社．40-62.
- Oeyen, S. G., Vandijck, D. M., Benoit, D. D., Annemans, L., Decruyenaere, J. M. (2010)．Quality of life after intensive care: a systematic review of the literature. Crit Care Med, 38(12), 2386-400.
- Ohue Takashi, Moriyama Michiko, Nakaya Takashi(2011)．日本人看護師のストレス、燃え尽き、離職意向の認知モデルの検討(Examination of a cognitive model of stress, burnout, and intention to resign for Japanese nurses)(英語)．Japan Journal of Nursing Science, 8(1), 76-86.
- 岡元和文，八塩彰弘，上條泰，江口善友，新田憲市，今村浩(2014)．慢性期人工呼吸器－Post-ICU 長期人工呼吸 特集によせて ～Post-ICU 長期人工呼吸の諸問題～．人工呼吸，30(1)，2-5.
- Patricia Benner, Judith Wrubel(1989)．現象学的人間論と看護．難波卓志 訳(1999)．医学書院．P.67.
- 齋藤伸行，讃井將満，我妻ゆき子(現在研究中)．人工呼吸療法に関する疫学研究 Epidemiologic study of Mechanical Ventilation Practices in Japan : MVP investigation. http://www.jsicm.org/pdf/mvp_investigation_protocol.pdf [2014-03-06]
- 坂田五月，山崎律子，清原 恵美(2014)．看護師の職務ストレス対処行動とその関連要因－就職後 3 ヶ月から 2 年 6 ヶ月までの縦断的調査－．日本看護学会論文集 看護教育，44，232-235.
- 櫻本秀明(2014)．重症疾患患者の QOL. Intensive Care Nursing Review 2 : 6 - 15.
- Satterly, F. (2004)．看護師がいなくなる？第 1 版．田中芳文(2005)．西村書店.
- 柴田有美，行本武史，長野佑理，岩田 一葉，河内 陽介，久保 幸(2013)．人工呼吸器離脱

- に向けて行ったリハビリテーションの効果と今後の課題. 日本クリティカルケア看護学会誌, 9(2), 102.
- 白坂雅子(2013). 人工呼吸器装着患者の管理. クリティカルケア アドバンス看護実践. 山勢博彰 編. 南江堂. 29-35.
- 多田羅勝義, 石川悠加, 今井尚志, 神野進, 西間三馨, 福永秀敏(2005). 国立病院機構施設における長期人工呼吸の実態調査. 医療, 59(8), 427-432.
- 瀧浪将典, 内野滋彦, 鹿瀬陽一, 岩井健一, 齋藤敬太, 岩谷理恵子, 仁田坂謙一(2011). 一般病棟における人工呼吸器使用症例に対する全身管理の現状 各種ガイドラインとの比較(原著論文). 日本集中治療医学会雑誌, 18(3), 417-418.
- The Joint Commission. Issue 25: Preventing ventilator-related deaths and injuries (February 26, 2002). http://www.jointcommission.org/assets/1/18/SEA_25.pdf [2015-01-01]
- 宇城 令, 中山 和弘(2006). 病院看護師の医師との協働に対する認識に関連する要因(原著論文). 日本看護管理学会誌, 9(2), 22-30.
- 宇都宮明美(2010). 呼吸ケアチームの実績と専門館越しの活躍. 看護, 62(8), 57-60.
- 宇都宮 明美, 伊藤 智美, 杉野 由起子, 能芝 範子, 明神 哲也, 吉里 孝子(2013). 心臓血管手術後患者の早期離床プログラムの安全性と影響要因の検討. 木村看護教育振興財団看護研究集録, 20, 1-11.
- Vasilevskis, E. E., Ely, E. W., Speroff, T., Pun, B. T., Boehm, L., Dittus, R. S. (2010). Reducing iatrogenic risks : ICU-acquired delirium and weakness-crossing the quality chasm. Chest, 138(5), 1224-33.
- 渡邊輝子(2014). 自閉症の子どものプリパレーション 柔軟な関わりによる調整. 看護管理, 24(2), 176-181.
- 山口 亜希子, 江川 幸二, 吉永 喜久恵(2013). ICU 看護師が体験した人工呼吸器装着患者とのコミュニケーションの困難さおよび実践. 日本クリティカルケア看護学会誌, 9(1), 48-60.
- 吉井智晴(2004). 理学療法士のコミュニケーションについての意識調査. 理学療法 進歩と展望, 18, 6-12.

II. 参考文献

- Karen K. Carlson(2007). The Clinical Nurse Specialist as Facilitator of Learning. In Mary G. McKinley(Ed). Acute and Critical Care Clinical Nurse Specialists Synergy for Best Practices (pp91-108). Philadelphia : SAUNDERS ELSEVIER.
- 古賀雄二(2012). 医源性リスク低減戦略としての ABCDE バンドルとチーム医療. 日本臨床救急医学会誌, 15, 152-9.
- 古賀雄二(2013). PAD ガイドラインと ABCDE ガイドラインの関連性. 急変キャッチ達人ナース, 34(4), 2-8.
- 久保真人(2004). バーンアウトの心理学ー燃え尽き症候群とはー. サイエンス社. 133.
- 松岡千代(2013). 多職種連携の新時代に向けて 実践・研究・教育の課題と展望. リハビリテーション連携科学, 14(2), 181-194.
- Stephen P. Robbins(2005). コンフリクトと交渉. 【新版】組織行動のマネジメントー入門から実践へ. ダイヤモンド社. 316-342.
- 卯野木健(2013). 早期離床の考え方ー覚醒と早期リハの実践ー. もっとも新しい重症患者の早期離床の考えかたー鎮静管理とリハビリテーションー. 卯野木健 編. 71-77.